

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3470101654
法人名	有限会社 かざぐるま
事業所名	グループホームはるかぜ
所在地	広島市安佐北区亀山南2丁目5番20号-5 (電 話) 082 - 819 - 1107
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 1 階建ての 階 ~ 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(9月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性	6 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村病院、中野内科医院、うつみや歯科、森岡神経内科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはるかぜは、周辺に山や田畑が広がり、静かな住宅地の中に立地している。又、グループホームの先駆けとして平成12年に開設したホームで、近隣のホームのリーダー的存在となっている。地域周辺との関わりも非常に理解があり協力的で、地域に溶け込んでいる事が伺える。入居者の方、一人ひとりを大切に馴染みの関係を繋いでいくことを基本理念とした家庭的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	玄関周りの充実改善や事故防止の為の取り組み等、常によりよいものを目指していく工夫や努力が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年は「一人一人に寄り添って」を目標に取り組んだ。今年は「一人一人を大切に」を目標としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議において地元の方より、外出される利用者に対してネームを付けてもらいたいという提案があった。いろいろ検討されPHSや名札等、その方に応じた安心グッズを持って頂くように話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への状況報告は細めにされ、家族も安心しておられる。最近、入所された方の徘徊も少なくなり、職員皆の対応に感心されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流はとても盛んで、地元自治会との間で相互防災協定が出来、助け合う体制が整ってきた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者のペースで暮らしていただくサポートをする。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに利用者の馴染みの場所、友人等を大切に関係を繋いでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきサロンに参加したり、グランドゴルフにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で皆で検討し、改善点を共有し、活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、利用者、家族、管理者、職員が参加し、有意義な話し合いがなされている。		

グループホームはるかぜ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症アドバイザーのいる施設としても市と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	はるかぜ便りを年1回発行し、利用者の暮らしぶりを報告している。又、一人ひとりの家族に電話をする。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4ヶ月に一度、家族会があり、意見をしっかり聞いて対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同グループで交換研修の期間職員の異動はあるが、出来るだけ馴染みの職員の関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員、パートに関わらず段階に応じて研修を受けるシステムがある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回、近隣のグループホームとの意見交換の場を設け、良い交流となっている。		

グループホームはるかぜ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用開始前に自宅を訪問し、説明したり、又、ホームを見学してもらい、入居当日は歓迎会を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	家事を一緒にしたり、卓球のコーチをしてもらったり、手芸等を教わったりして、経験から学ぶことも多い。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者一人ひとりの生活ペースに合わせ、見守りながら本人本位の生活をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は、はるかぜ独自様式で「はるかぜ生活プラン」を作成している。見てわかりやすいものになっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	ケア会議を2ヶ月に1回、行なっている。見直しが必要な場合、主治医の意見も確認しながら見直している。		

グループホームはるかぜ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護、医療連携体制加算の指定を受けており、状況に応じて支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診されている。家族や職員が同行して通院している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで2人を看取りされた経験がある。家族やかかりつけ医と何度も話し合い、方針を共有している。		入居者の方ほぼ全員で葬儀に参加され、見送られた。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や更衣等のケア時には、本人の羞恥心に心配りをしながら声掛けをしている。又、生活空間での申し送りは避けるように取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の様子や希望に添って支援している。特に希望を尊重されている。		

グループホームはるかぜ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューはその日の入居者の方の意見を入れ、決める事もある。又、ホームで栽培された野菜も食卓を賑わせる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、決まっているが、本人の希望や必要性に応じて対応している。		入浴を好まない方に対して声掛けの工夫や足湯等をしてしながら心地よさを体感してもらう。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割、楽しみごとは、生活プランに入れていて、卓球、散歩、歌、買物、手芸等の得意なこと好きなことを活かして過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、畑のみならず、入居者の方が自由に外出できるように支援している。		地域と協力して見守り体制はあるが、不意の外出、緊急時に備えて、PHS、名札等を取り入れている。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかかっておらず、センサーで確認のみ。自由である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消化非難訓練を実施している。地元自治会との間で相互防災協定が出来、体制が整っている。		救急救命訓練を受ける予定となっている。

グループホームはるかぜ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや好きな物には配慮しているが、食べる量や水分量は強要せず、本人本位を重点に置いている。		食事量や水分量の数字にのみこだわるのではなく、心理的環境を重視されている事も大事だが、身体的活動を応じた支援を期待しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集まる居間に、それぞれ自分の居場所があり、居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に電話を引かれたり、自宅から仏壇を持ち込まれたりして、一人ひとりの個性ある部屋になっている。		